

〔古今和歌集〕春の歌としてよめる

思ふどち春の山べにうちむれてそこともいはぬたびねしてしが

〔書言字考節用集〕知チ音ヲ絶ズ友ト也也文選註謂知我者也鐘子期死伯牙

〔今昔物語〕阿闍世王殺父王語第二十六

今昔天竺ニ阿闍世王提婆達多ト得意知音ニシテ互ニ云フ事ヲ皆金口ノ誠言ト云テ信ズ

〔古今著聞集〕後嵯峨院の御時龜山殿御所の比高倉宰相茂通卿と榮性法眼とはむかし

よりの知音にて有けるに

〔源氏物語〕よしきよおどろきて入道はかのくにのときいにて年比あひかたらひ侍つれど

わたくしにいさ、かあひうらむること侍てことなるせうそこをだにかよはさでひさしうな

り侍ぬるを

〔細流抄〕とくいにて國にての知音なるなり良清が父も播磨國守なりし便なり

〔枕草子〕少納言が物ゆかしがりて侍るならんと申させ給へばあなはづかしかれはふるぎと

くいをいとにくげなるむすめども持たりともこそ見侍れなどの給ふ御けしきいとむたりが

ほなり

〔名物六帖〕資客朋儔チカフツキ相知ヲ列ス仙傳ヲ將シ入ル知チ故コ同ト上ニ一ニ日ニ與リ知ル

〔古今和歌集〕題しらす 藤原おきかせ

たれをかもしる人にせん高砂の松も昔の友ならなくに

〔倭訓栞〕俗語なり人につきおふなどいふば交るをいへり附會の義にや

〔信玄家法〕一於朋友被隔心之族仁道可嗜事語曰終食隙不違仁

〔千代もと草〕朋友 友とまじはるにはすこしも偽あれば心はなるものなり